



サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗妙國寺住職
伊藤日耀さん

第29回

「ならぬことはならぬ」 会津の教えを心に刻んで



いとう・にちよう 1937年、福島県生まれ。1960年に立正大学文学部卒業。1991年より妙國寺住職に。その後は福島仏教会会長、会津仏教会会長などを務めるほか、会津ホスピスケア研究会に参画し、病院でのボランティア活動にも取り組む。白虎隊士の仮埋葬地でもある妙國寺はJR会津若松駅よりタクシーで約5分。妙國寺／福島県会津若松市一箕町八幡字墓料78番地

妙國寺は白虎隊士仮埋葬のお寺です。白虎隊は会津藩士の子弟、16〜17歳の少年たちで組織された部隊。戊辰戦争で新政府軍の敵とみなされた会津藩の予備兵力でしたが、戦況が厳しくなったことから前線へと進軍することになりました。しかし退却を余儀なくされ、飯盛山へとたどり着きます。自分たちの役目がもう終わったと悟った隊士たちは、敵に捕まり生き恥をさらすよりは自刃しようと決意をとり留めたものの、19名が死亡したのです。

敗軍である会津藩の戦死者を埋葬することは禁じられていたため、白虎隊士の遺体は野ざらしになっていました。藩のためには戦つて自刃した白虎隊士を野ざらしにしておくのではない……そう思った当寺檀家の吉田伊惣治が、夜な夜な遺体を当寺に運び、埋葬したのです。

その後、自刃地である飯盛山に本葬され墓碑も建てられました。白虎隊士の仮埋葬地として当寺には慰霊碑が残っています。白虎隊士の国を思う気持ち、領民を思う気持ち、殿様への忠誠……そうした純真な魂が人々の心を打つでしょう。お参りに来られる方がいまだ多くいらつしやいます。



士会公子
隊の保津も
白虎隊の松
白最平宮の
ある松平宮
に慰霊主・秩
境の津孫の手
の津の孫の手

「あいづっこ宣言」には「八重なごの言葉が。」

昔も今も会津人の心に 根付く「仕の誓ひ」

当時の会津藩では、6〜10歳の藩士の子どもは「仕の誓ひ」を守らなければなりません。二、年長者の言ふことには背いてはなりません。一、虚言（うそ）を言うことはなりません。一、弱い者をいぢめてはなりません……そして「ならぬことはならぬもの」と結ばれている7つの掟です。この掟によつて、決まりをもつて遊ぶ、決まりに基づいて日常生活を

相手を尊重し、協力し合う ことが大事なのです

送ることを教えられていたのです。この「仕の誓ひ」の現代版として、会津若松市では平成13年から「あいづっこ宣言」が提唱されています。白虎隊士たち同様、「ならぬことはならぬ」と育てられてきた会津の子どもたち。会津人が頑固・至誠と評されるのは、この教えに従い、故郷に対しての誇りを持ち続けているからこそなのかもしれません。

今、いじめや体罰などが問題になっていますが、こんな時代にこそ「仕の誓ひ」を読んでいただきたいと思ひます。みんながこの掟を守れば、いじめなどなくなるはず。お互いを尊重し、助け合つて生きていくための教えでもあるからです。「ならぬことはならぬ」……NHK大河ドラマ『八重の桜』にもたびたび登場する言葉。この機会に、この言葉の意味と教えを学んでいただきたいと思います。